

令和元年度第2回鞍手町総合教育会議
議事録

- ・日 時 令和元年10月30日 午後4時から
- ・場 所 鞍手町役場 応接室
- ・出席者 町長 岡崎邦博
教育長 栗田ゆかり
教育委員 藤井睦彦
教育委員 野中眞知
教育委員 木月芙美代
教育委員 堀角泰正

(事務局)

- 教育課長 古後憲浩
- 総務課庶務管財係長 神谷 徹

開 会 (16:00)

○庶務管財係長 (神谷 徹)

それではただいまから、「令和元年度第2回鞍手町総合教育会議」を開催致します。本日司会進行を務めます、神谷と申します。よろしくお願します。

お配りしております次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、岡崎町長にご挨拶をお願いします。

○町長 (岡崎邦博)

みなさん、こんにちは。

先程まで教育委員会、開催されていたという事で、お疲れのところですね、また総合教育会議、こちらのほうに来ていただいて本当にありがとうございます。小学校のあり方については今迄にも何度かお話をさせていただきましたが、今後の進め方についてもですね、皆様のご意見を伺いながら、私の考えもですね、合わせて述べさせていただいてですね、今日の会議を実りあるものになればいいなというふうに思っていますのでどうぞよろしくお願します。

○庶務管財係長（神谷 徹）

ありがとうございます。続きまして栗田教育長お願いします。

○教育長（栗田ゆかり）

本年度第2回ということで、総合教育会議を開いていただいて本当にありがとうございます。教育委員会としての在り方等についても、いろいろ協議しながら町長さんと意見公有する中で、鞍手町の子供たちにとってのより良い教育の在り方というものを考えていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

○庶務管財係長（神谷 徹）

ありがとうございます。それではですね、さっそく議題の方に進みたいと思います。議題1、「小学校の在り方について」というところで、本日参考資料としましてですね、前回第1回目に付けておりました小学校の児童生徒数、及び推計というところの一覧を付けておりますので参考までにご覧ください。それでは意見交換の方をよろしくお願いします。

○町長（岡崎邦博）

今日お配りいただいております資料についてはですね、一度お目とおし頂いていると思います。そして新たにですね、古後課長の方から近隣の北九州、筑豊、京築というところのですね、学校名、学級数、児童数という事で、その市町名、人口も含めて資料を出していただいております。小学校の在り方については先程も言いましたように、私の中ではですね、今の6校の小学校を駆使した方がいいのか、または、ある程度統合を視野に入れた中で小学校の在り方について適正な配置についてですね、考えた方がいいのかという事など、考えをいろいろ教育委員の皆様にも述べさせていただいております。そんな中で、まずそれこそ前段としてですね、保護者の方達が、今、小学校の在り方、小学校の在り方といいますと適正なですね、小学校の数だとか今の学級に対する児童数だとか、色々そういったものについてもですね、お考えをお持ちだろうというふうに考えます。そういった事についてですね、まずは保護者の方達がどのようにお考えになっているかという事をですね、お聞きしたいというふうに思っています。6校のですね、今実際に子供さんを通わせている保護者の方達のご意見を聴取したうえで、今後についてですね、それを踏まえて考えていきたいというふうに思います。それでまずはですね、そういった保護者の方達の意見を聴取する場を作りたいと思いますので、教育委員の皆さまにも、その事について特段のご配慮をいただければというふうに思っています。

○堀角委員

アンケートか何かをするのでしょうか。

○町長（岡崎邦博）

いえいえ、もう実際に生の声が聴きたいという事を考えています。

○堀角委員

今迄、直接聴くとなると、やっぱり保護者も混乱する部分があったりだとか、やはりその教育の場を把握した立場、教育委員会からの聴き取りであったりとかアンケートとかいう形であれば、学校それぞれの特徴とかを把握できたうえで聴き取りができるとは思いますけど、町長が直接行って聴き取りとなるとちょっと混乱が起きないですか。

○町長（岡崎邦博）

どういうふうな混乱が起こるのか、まあちょっと私自身は想定できないですけど、まあ混乱や騒ぎというのにはならないでしょうし、どういう意見が出るかというの今は全くもう想像がつかないですよ。だからまあ色々な意見も保護者の意見ですから、それがどういう方向に向いてるとか、どういう形でまとまるかとか、そういう事も想定はしてなくて、ただ、そのまとめようという気もありませんし、そういう方向付けをしようという気もありませんし、保護者の人達がいま素直にね、現状をどう捉えているかという事をお聴きしたいという事です。

○堀角委員

何となく自分が考える筋道というか流れからすると、町長が例えば教育委員会にこういう事を聴いてほしいんだという事や、現状がどういう状態なのかっていう事が知りたいんだという事を投げかけていただいて、教育委員会がそれを判断してですね、的確にその情報を収集するっていうほうが、良いんじゃないでしょうか。

○町長（岡崎邦博）

教育委員会の方に投げ掛けるっていう事も一つの方法だとは思いますが。しかしそれは間接的な見を聴くっていう事になりますので、私自身は以前からも住民の生の声を聴きたいという事は議会の中でも言ってきています。そういう事でどういう意見がどのように出てくるか分からないんですけど、そういった状況も生の声だろうというふうに思うんですよね。だからそういう素直な住民の方達の考えを聴取できればそれが一番良いのかなというふうに思います。だから本当にみんなどう思いますか？という感じで学校について意見を聞くと、ひょっとすれば案外今のまんまが良いというふうに言う方が多いかもしれません。

○堀角委員

結構出ると思う。思いますよね、そういう意見も。

○町長（岡崎邦博）

うん、そうだと思います。本当にいろいろな意見が聴けるのではないかなと思います。何で今の方が良いかっていうのも文科省が書いている中には色々な事が書かれているけれど、まあそれがそのまま保護者の方の口から出てくるかどうか分かりませんが、実際本当にどういう意見が出てくるかというのもですね、もう全く自分の中でも想定はしていません。また想定するとね、かえってそういう方向に持って行こうとするんじゃないかという事もあるからですね、ただただ素直に聴きたいという事で聴くのが一番じゃないかなと。まあそういった中で今の現状が段々はっきりと保護者の考えの中からね、聴き取ればいいのかあというのは思います。

○野中委員

ちょっと確認させていただいていいですか？ 小学校の在り方についてっていう議題で提案されるみたいな事をお聞きしましたけれども、統廃合についてお尋ねされるんですかね、それとも在り方について保護者の皆様にお尋ねされたいんですかね？

○町長（岡崎邦博）

統廃合についてっていう事になると、要するに統合するかしないか二者択一みたいな事になりますよね。ある程度絞られた形になるかなっていうふうな気がします。そういった事で在り方という、また今度教育内容がどうだとか、今の先生がどうだとか、学習がどうだとかいうような事にもなりかねないので、その辺は排除していきたくて、それは除いた中で小学校6校の適正な配置、一学級、一学年あたりの数、そういった事について、どのように思うかといった形が良いのかなというふうに思っています。ただ在り方という範囲が広がって教育内容まで関わる可能性もあるので、その辺を外した中で聴いていこうかなというふうには思っています。

○野中委員

ちょっと分からないんですけど。あの、在り方ってお尋ねされたらやはり先生に対する不満とか、今の教育みたい、学校の備品とか暑いとか寒い、色々いろんな分野で出てくると思うんですよ。その中で、統廃合が出てくるかもしれませんし、どちらかという保護者の目から見ると、身近なところの問題からおそらく在り方であれば、どちらかと言えば不満が出てきますよね。で、そういうことをお聴きする場なのか、それともやっぱり町の方針としてのこういうビジョンがありますから、このビジョンに向けて皆さんのご意見をお聴きして、より良い形に持っていきたいというような形でご意見をお聴きするのか、その辺がですね、ちょっと私達も答えようがないなど。

○町長（岡崎邦博）

委員がおっしゃるとおりですね、在り方というふうな形で聴くと今まさしく言われ

たような意見が出てくる可能性があるんですね。だからそれは除くような形で提案していこうと思っています。それがこの、議題としては小学校の在り方っていう事にはなっていますが、保護者に対する投げかけ方を、議題としてはどういう文章が良いか今ここではっきりとこれが良いというふうには私の中では決めているわけじゃありません。ですから今ご心配の点についてはですね、保護者の方から出ないような形の問いかけにしたいと思っています。

○野中委員

難しいと思います。どういう言葉を出されて、どういうふうに行かされるのかなと、やっぱり保護者の立場からいうとやっぱりどうしても一番身近なところですね。やっぱり大きな問題としては統廃合、町の行政がいくと出てくると思うんですけど。

○町長（岡崎邦博）

統廃合と言ってしまうと、もう統廃合進めるんだなっていうふうにならされてしまい、今度は逆に反発が出てくるんですね。それで統廃合事態が進まないという事もよくあるし、反対運動まで起こったりだとか、位置まで変える事もですね、まあその裁判沙汰になるというようなところまであったりだとかですね、色々さまざまな事が出てきますから、まずはそこまで行き着く前の話として、子供さんを育てている人達の思いを聴きたいという事です。ですからまだ進めるか進めないかの話もしない中で、今の素直な気持ちを聴きたいという事です。

○野中委員

すいません。町長さんがお聴きしたいのはどんな事をお聴きしたいんですかね。漠然とした、いろんな事になってくると思うんですけどそれで良いんですかね。

○町長（岡崎邦博）

さっき言うたように色々な不満、不平不満をまああの言うような場にはしたくないと思っていますから。

○木月委員

でも、当然出てくるんじゃないですか、不平不満。どのようにしたいんですかって言われたらやっぱり。

○堀角委員

絶対出てきますよ。

○町長（岡崎邦博）

まあ出ると思いますけど、それはそれとして、とりあえずは聴きますけど、じゃあ学校の在り方の中でもというふうな事で、もう少し範囲を絞るか、さっきも言いましたようにはっきりどういう問いかけにするかというのを決めてないので、問い掛けの仕方だろうとは思いますが。

○堀角委員

やはり、教育委員会を通じてアンケート調査か何かした方がいいのでは。

○町長（岡崎邦博）

アンケートは、画一的なものになったりだとか、深まりがない、議論にならない、議論するつもりは無いけど深まらないね。聴き方によって支持的な聴き方もできるし、そりゃアンケートというものは、なかなか素直な気持ちが出ない場合もある。

○教育長（栗田ゆかり）

記名をしないとこういう事を出していけば結構辛辣な意見は、辛辣というかしっかりしたお考えが。学校アンケートを私は何回もしておりますけど、その中でもそれはかなり出ます。関心の、関心というか学校とか教育に関心のある方達は、それはやっぱり出されると思います。だからそういう懇談会みたいなのをしてもやっぱり関心のある方達がお見えになるだろうから、そういう方達はアンケートの中でもお答えはいただけるというふうに私は思います。

○堀角委員

それでは、ステップとして1回、教育委員会の方からアンケートをしてみるというのはどうですか？

○町長（岡崎邦博）

いや私としてはね、以前からも言ってるように、住民の人達と直接話を聴きたいというのが私の中のコンセンサスとしてあるわけですよ。だからそこをまずやって意見を聴きたいんですよね。特に以前からも言ってますけど、どうしても住民との距離がどうあるか、どうあるべきか、また、現状がどうなのかっていうのもあるんですよね、自分の中には。だからそういった直接生の声を聴く事が住民との距離を縮める事にも当然繋がるだろうというふうにも思っています。まあその一つはこういう教育、学校についてになってます。それは様々な事についても言える事であるけども、私の基本になってるところでもあります。まあ議会では、町づくり委員会、協議会というのは二度否決はされましたけど、基本的に住民との対話をね、持った中で色々な意見を聴いた中で進めていきたいというのが私の基本的なスタンスです。

○藤井委員

町長、一つ、この小学校の在り方をですね、町長は聴くと言われているけれど、聴き方はどういう形を町長は考えていますか。その保護者を全員集めてするとか、各学校で保護者を集めてするとか、いろいろ方法があると思うんですよね。それでそういうものが、何で町長が保護者に在り方を聴くんだろかとかいう疑問を持つ保護者も出てくると思うんですよね。それで在り方だけで聴くと、町長の真意が分からないということもありますし、保護者に対して小学校の在り方だけを町長が聴きたいと言ったら、町長は何の為の在り方を聴くんだろかという話になってくるんですよね。

○町長（岡崎邦博）

だから先程も言いましたように、今その問い掛けをですね、僕は今在り方ってなっていますけど、今日はこの会議の中ではまあそういう議題をですね。

○藤井委員

議題は議題で良いんですけどね、聴くのにもやはり方法っていうのがあると思うんですよね。

○町長（岡崎邦博）

だから方法としてはですね、各小学校6校回って保護者の方にいついつ何時にこうやってやりますからお集まり下さいっていう形で出していただければと思っています。

○藤井委員

やっぱり聴くにしても、保護者が混乱を起こさないような聴き方をする必要があります。学校の今いうように在り方だけ聴きたと言うと色々な面で混乱が大きくなって来るからですね、範囲が大きくなって来るから。それと、町長として聴いた案件が、既に学校内で取り組んでいることまで出てきたら今度は学校が混乱しますからね。意見の中にそういうものが出てくるとですね。そういうものが出ないようなやり方をしないと、町長が聴き行かれて学校が混乱したら、我々も困るという面も出てきますからね。それでそのところをある程度煮詰めておかないと。町長が聴かれるのは私はやぶさかではないと思ってるんですけどね。良いんだけど、やはり保護者に聴く内容をある程度絞り込んで聴いてもらわないと、大きな面で聴こうとすると混乱を招きかねないからですね。それで最終的には、今言うように保護者に町長が聴きたいというのは子供が少子化になってきて子供の数が減ってきている。そしたら要するに小学校、今、六つあるのも本当にこのまんま継続して良いかどうかとか、そういう聴き方であれば保護者は言うでしょう、今のまんまが良いと、減ってきてても今のまんまが良いですよという。ただ今言ったのは、前町長にもちらっと私話した事があったけど、学力的には今ちょうど上がってきてるんですよね。みんな各学校の先生たちが一生懸命頑張って、校長以下が一生懸命やって残りを上げていこうとしている時期で

ね、その中でまた妙なものを色々聴かれると今度混乱してしまって、今度は学力どころじゃないとか、そういう風に先生達のチームワークがガチャガチャになってしまうとかいう形になっても私等としてはちょっと困るなっていうのもあるしですね。それでまあ町長のそういう形の聴くものをピンとある程度範囲を絞って聴かれるのであればいいんだけど、ただ漠然と聴かれると色々問題が、混乱しそうな気がしてしょうがないですね。

○町長（岡崎邦博）

だから先程から何度も言ってますように、今どういう問い掛けにするかっていうのははっきり決めてませんが、その問い掛けについてはですね、もちろん当然了承を得たいと思ってます。こういう問い掛けでいきたいと。

○藤井委員

それとやっぱり、保護者は仕事を持っている方も多くて、色々な面があるので、ある程度のやり方というのは考えてやってもらわないと、ただポンと言われてポンと集めるよと言うのは中々難しい面が出て来る気がするんですね。

○町長（岡崎邦博）

さっきも言ったように、学校でそれぞれいつ開催についてのプリントの配布はお願いしたいというふうに思ってますし、学校の施設の一部をお借りして、保護者の方々に集まっていただいて開催しようとは思ってます。ただそこです、誰も来なかったと、または数人しか来なかったというような事があっても、それはそれとして今現状がですね、保護者の方達の関心がそれだけ無いという事が、いう事が言えるだけの事で、それはそれとして受け止めればいいわけだし、そりゃもうどういふふうになるかっていう想定は、今何度も言いますがしてませんので、全然来ないかもしれませんし、まあたくさん来ていただけるかもしれませんし、そりゃ分かりません。だけど先程から言ってますように、ある程度範囲を絞った中で、保護者の方達には問い掛けをしたいと思ってますし、色々な批判だとか何だとかいうような事があれば、その辺の事についてはこちらの方からですね、今日はそういうお話を聴く機会ではないという事をはっきりいう事も出来ると思えますし、そういう整理の仕方もして行きながらですね、話を聴くことは出来るかなという気はします。だからそれは私の方ですべてそういう整理をしていけるんじゃないかなという気はしてますけど。

○教育長（栗田ゆかり）

お話を聴かれた後、その活かし方というかですね、そこら辺の部分をどんなふうにお考えなのかなって。

○町長（岡崎邦博）

聴取した中でそういう事を参考にさせていただきながらですね、どういうふうな中身になるか全く分かりませんが、何がしかの形でそれは活かしていく事になると思っています。それが保護者の方達はこういう考えを持ってのけど、いやでも私はそういう考えを聴きながらも、例えば地域の方も含めた中でもう一度お話を聴くとか、色々今後の進め方については順序を一つずつ踏んでいってですね、特に時間をかけてしていくようなものでもあるというふうに思いますので、こうやって決めてこれでいきますからこれで説明して終わりますみたいな事にはしたくないので。とにかく、こういう問題について住民の人達の考えをどうまとめていくかっていうのは、すごく関心も高いし、センシティブな問題っていうか、そういうその微妙なところがあるわけですよ。だからいかに住民の人達に理解をしてもらうかという部分について時間を掛けないとですね、なかなか進まない話だと思います。そこを、どうやって時間を掛けていくのか、どう丁寧にしていくのかと考えたときに、やはり直接関係する保護者の方達の意見を尊重しながら進めていくという事だろうと思うんですよ。中学校の時の進め方も色々ありましたけど、中学校よりもむしろ小学校の方がですね、非常に地域の方達の思い入れもありますし、色々な意見を持っている方達もいると思います。そういった意見をですね、どう合意形成していくかというのはすごく難しい話です。これも時間が掛かります。だから、まずはその一番最初としてですね、今実際に子供さんを育てている方の意見を聴きたいっていう事から初めようと思ってます。

○藤井委員

まあ確かに町長言われるように、地元の方は今のまんまの方が良いと言われる人が恐らく多いと思いますよ。やはり地元から小学校を無くしたくない。特に室木小学校でも子供の数は少ないけど、地域の人っていうのは一生懸命になって小学校盛り上げて頂いていますからね。そういう事があるからやっぱりこの聴くのもある程度の事をピシッと方向性を持って聴かないと、ただ漠然と聴いてみたらそのまんまのが良いですよっていう回答になる確率が高いんじゃないかなという気はしますけどね。

私が心配しとるのは、混乱を招いたら、後色々やりにくくなるからですね。それでそこのところ、やっぱり慎重にものを進めてもらいたいと言うのはあるわけですよ。さっき堀角委員が言われましたように、一番手っ取り早いのはアンケートをとる方法です。町長が保護者の意見を聞くということについては私は反対ではないし、町長としてやるべきことだと思いますが、そこまで時間を掛けて町長がやられるのが本当正しいかどうか私にはよう分からないからですね、アンケート的なもので集めた方が手っ取り早いのではないかなと思います。

○教育長（栗田ゆかり）

あのう事前調査じゃないですけどですね、アンケート等を通してとりあえずは実態を把握して、それでまた意見をですね、懇談をされるという話も、出来るかなって思

います。

○町長（岡崎邦博）

アンケートはアンケートですね、よくあるのは、それがまた一人歩きするんですよ。それが一つの結果として残りますから、アンケート取ったらこうやないかっていうのはもうこれから動かなくなるんですよ、逆に言うと。だからそういう色々な意見を聴く場であればですね、その意見を聴きながら周りの人達何人かいればですね、そういう人達の意見を直接聴きながら自分も要するに保護者の方達も考える事が出来るんですよ。だけどアンケートはただ自分の意見を書くだけの事になるから人の意見を聴く事はない中での自分の意見になるんですよ。そうなるとなかなか合意形成に結び付けるにはですね、難しい作業にはなります。だからやっぱり、とにかく前に進めよう進めようとする中で、どうやって合意をその取り付けていくか、合意形成に結び付けていくかというのが、一番だろうと思うんですよ。一番その要するにある意味混乱が起こるのはですね、もう行政としてはこういうふうな形で決めましたからこういうふうに進めますというように時に、私は一番混乱が起こるんじゃないかなと、またむしろ住民にとっては失望に繋がるんじゃないかなという気がします。だからその前段にどれだけの時間を掛けてですね、どれだけの人の気持ちを酌んでいくか、ここに私は一番時間を割くべきだと。で、ある程度の合意形成が出来そうだなっていうのがですね、見えた時点で検討委員会なりを立ち上げてですね、その方向に向けて進めていく、いうふうなことじゃないかなと。

○堀角委員

僕はこんな教育現場を作りたいとかいうのを訴えて、どう思いますかと聞いた方がいいんじゃないですか。

○町長（岡崎邦博）

それも一つの手段と思うしそうも言いたいなとも思ってることもあるけど、その前にいっぺん聴くと。

○藤井委員

タイミング的にですね、今その校舎はもう耐震強度全部やっておるですね、そして空調設備を今度付けたばかりですね、それで今更そういう問題を出すのかという考えを持って人が出てくる可能性もありますよね。

○町長（岡崎邦博）

まあそれもあるかもしれませんね。もうある程度夏も涼しく冬は本当は点けたらいいけんけど冬も暖かく勉強出来るかも、出来るようになればですね。

○藤井委員

時期的にいうてそれが本当に今が時期的に良いのかどうかも立場上分からんのですけどね。

○町長（岡崎邦博）

ただそれこそ進めるにあたってですね、相当さっきも言った、みなさんのお話だと時間かかる作業なんです。今始めてですね、まあ3年5年で出来るような話じゃないっていうふうに思うんです。まあ本当最短でも5年、6年はかかるでしょう、恐らくは。その前段で恐らく3年位はかかると思います、町民のですね、合意を得られるのにですね、それぐらいのスパンで考えていかんとなかなか出来る話じゃないと思うんです。そしてクーラーの、あれは6年か8年かなるんですよね。もうそれ更新時期が来ますからですね。じゃあまた6校クーラー付けるのか、そりゃなかなかもう今日もですね、校舎が傷んで雨漏りしてるから補修して下さいって言ってまた持ってきましたけど、校舎ももう傷んでるんですよね。もう補修にいくら掛かってるか、6校の校舎の補修にですね、相当なやっぱり金額が毎年掛かっています。だからそういった事も考え合わせればですね、今から取り組んで5年か6年か7年かくらいは恐らく掛かるでしょう。で、それをそのじゃあどういう時から始めるっていう、始めるきっかけもないんです。ですからじゃあ5年後から始めてもう後じゃあ6年7年かけて12～3年かければ良いのかっていう話にもならないというふうに思います。パソコンが今6校に入れるのにですね、これも相当な費用がかかっています。今この電子黒板っていうのもICTで普通に今言われてますが、これ6校揃えられるかっていうとなかなか今の財政状況じゃ難しい状況にあります。そういったある意味教育環境としてもですね、私は早く整える必要があると思いますし、もう以前から言われてますように教育、あの給食センターの問題もありますし、なかなかやっぱりその財源が豊かな中である、まあ出来ればいいんですけど、そういうその教育環境を整えるうえでのですね、今の6校を維持したままで同じような教育環境を整えていくっていうのはちょっと難しい状況があります。まあそういう事もこれは保護者の方達に話すべき話じゃありませんけど、そういった所もですね、考え合わせたくてじゃあスタートはこういうふうな形でいつ進めていくかっていう事になるんですよね。だからそれはもう私はスタートは早い方が良いというふうに思っています。だから結局今、保護者の方達、まあ1年生の方達の保護者もひよっとしたらもう卒業してるかもしれないです。そういう事もあるかもしれない。だからそういう意味で関心が薄くなるっていう事はあるかもしれないし、むしろ今保育園だとか乳幼児を抱えているお母さん達の意見を聴くことの方がひよっとすれば重要かも知れませんが、まずはそういう意見の聴取をしたいという事です。

○野中委員

町長さんにお話をお聴きしてたらですね、やっぱり根底は統廃合だなんて今凄く感

じたんですけども、

○町長（岡崎邦博）

うん、もちろん。はい。

○野中委員

そこで、主催はですねどちらになるんですかねこの話し合いの主催は。教育委員会であればいろんな質問が出てくると思うんですよね結構不平不満とか。そしたらやっぱり必ずそういう保護者の方から質問とかご意見が出れば、それに対するお答えっていうのは必ず返さないと、何の為の話し合いかって事に今度逆になってくると思うんですよね。で、そうなった時に、やはりある色々出てきた時に果たして私達っていうか教育委員会の方が対応出来るかっていう大きな問題も抱えますし、だからあまりにも漠然とし過ぎた場合はですね。で、町長さんのこの今もお聞きしてたらはっきりしてるなっていう感じで。ご意見を聴くのは別に反対でも何でもありません、ただその時にお答えするのが何処が答えていくのかとかですね、で主催は何処なのか、それによって随分変わってくると思うし、その辺やっぱりある一つの事を提案するとか何とかするという時に、主催者が何処で、何処までの範囲が何処が責任を持つかっていう事もある程度お聞きしておかないと私達も全然どう答えて良いか分からないというか出席しなければいけないのかとかですね。

○町長（岡崎邦博）

いやいや、むしろ出席は控えてもらった方が良いでしょうね。

○野中委員

ああ良いわけですね。町長さんだけがご意見をお聴きするっていう事ですかね。

○町長（岡崎邦博）

そうですね、はい。

○野中委員

その場でお答えとかいうのは考えてあるんですか。

○町長（岡崎邦博）

いえ、意見を聴く場なんで。

○野中委員

聴くだけですか。

○町長（岡崎邦博）

なるべくそういう答えだとか、私が今言うような考えだとかはなるべく控えとった方がいいんじゃないかなっていうふうには今思ってるんですよ。もうその場になってそういう事をずっと求められてくる可能性もありますけど。

○野中委員

だから即、教育委員会としての答えをどう思われますかと言われた時にまたそうすると私達も会合持ってどうかという事を話し合っていないといけないとか出てくるからですね。

○町長（岡崎邦博）

教育委員会とはまず切り離してる方が良いでしょう。

○野中委員

という事は、町としての何て言うんですか、執行部って言うんですかね、私よく分かりませんが。そういう方でこういう話し合いを持っていきたいという事を主催されるわけですよね。それを学校に提案されるというか、教育委員会としてそれをする事を呼びかけをしてもらうように。

○町長（岡崎邦博）

そうです、呼び掛けをしていただきたいという事ですね。まあそれを交渉してもらえればなというふうに思っています。

○野中委員

それはP T Aですね、あくまでもあの地域の方じゃなくて。

○町長（岡崎邦博）

そうです、保護者の方にですね。

○木月委員

そうすると、町主催という事ですよね。

○町長（岡崎邦博）

はい、はい。

○堀角委員

Tには聴かんっていう事ですかね。

○町長（岡崎邦博）

Tには聴かないですね。保護者だけです。

○野中委員

Pですね、PTAだけに。だから保護者ですよ。保護者の方に

○教育長（栗田ゆかり）

だから教師がそこら辺で意見を言うたらおかしな事になるからですね。

○野中委員

はい、はい。答えられない、答えたらそれが答えになってしまうからですね。うかつな、いい加減な答えは出来ないからですね。

○町長（岡崎邦博）

だから先生も外れていただいた方が良いでしょうし、教育委員の皆さんも外れてもらってる方が良いでしょう。

○木月委員

父兄と地域の方ですね。

○町長（岡崎邦博）

地域は入りません、保護者だけです。

○野中委員

やっぱり問題がこう難しいなあと思って。お聴きするだけっていうのが成立するのかなっていう感じが。

○教育長（栗田ゆかり）

それで、もしそういう形取られるんだったらPTAの会長さんだけでもですね、小学校の会長さんだけでも事前にお集まりいただいてですね、こういう趣旨で話をしたいので出来るだけ声掛けをして集まっていだけませんかというまあやり方の問題だからですね、今後あれかと思えますけど。それにはもう教育委員会とか教師は入りませんと、町長さんの、町の考えとしてそういうふうなご意見をいただきたいのでという事を会長さん達が十分ご理解いただいてPTAの役員会とかそういう中で広げていただくようなですね、やり方の部分になりますけど。

○野中委員

立場としては陳情みたいな感じですか？ 仮に私が保護者になった時はですね、何

か陳情するような気持ちになるような気がするんです。お聴きすることは別に反対でも何でもないんですけど、いきなりぽっと行かれるという事はどう保護者にとってどういうふうな感じになるのか。

○町長（岡崎邦博）

意見を聴くだけで、意見を聴くだけというふうに申しますけど、どういうお考えを持ってるかという事を聴く、聴く事が聴く事なので、こういうふうにして欲しいとかああして欲しいとかそういう事をお願いを聴く訳じゃないからですね。

○野中委員

なかなかそれ保護者の方に理解して、こっちが思っと思って説明してもですね、その説明。いろんな方がいらっしゃるし。

○町長（岡崎邦博）

この前段でも後段でも中段でも事ある毎にそういう事はこちらの方から言えば。

○木月委員

まあいろんな意見でしょうから。ただ聴くだけだったらいかんで言う人もいますでしょうし。

○野中委員

聴かれる事は別に反対でも何でもないし大事な事だと思うんですが、突然こうというのは保護者の方にどんなふうに伝わって行くのかなってというのがですね。

○堀角委員

商工会とか農協さんとかと青年部との懇談会とか事業計画に今まで僕等も町長との懇談会とかあったんで、色々こうそういう事は良いなあと、町の動向がどういうふうに進んで行くんかちゅうのを知る意味でですね、意見交換ちゅうのが必要かなと思うんですけど、果たしてそれが教育の場でどうなんかなって。教育長がおられて、どっち主導なのかと...

○総務課庶務管財係長（神谷）

そうですね、町長部局として行くのであれば、町づくりの観点からですね、学校の懇談会として、教育行政ではなく、町づくりの一つとして聴きにくるような形かと思うんですよね。で、後はお題ですね。尋ねる項目を絞って聴く、聴くのが良いのか、それが良いのかどうかですね、そこだけまあ判断していただければその辺上手くですね、持って行けるんじゃないかなとは思いますが。

○堀角委員

例えばその学校保護者に聴くっていうと、法の部分を全く無視してですね、今、町に対して不満であったりとかそういう事を聴くとか言うんやったら納得出来るんやないかなあとか。

○町長（岡崎邦博）

だけどまあそうするとそれこそ難しくなるよね、そういう聴き方やと。

○教育長（栗田ゆかり）

難しいですね、意見、ただ意見を聴くだけではですね。

○町長（岡崎邦博）

意見を聴くと言われたような懇談会みたいな形ですよ、形式的には。意見を聴く側としてはですね。

○野中委員

まあ少人数の場であれば意見を聴くというのはとても聴きやすいと思うんですね。例えばPTAの役員さんか、PTAの役員さんやらと膝を交えてこう話をするとかいうんやったらこう凄くこう、こうですよ、ああですよというのが出てくると思うんだけど、呼びかけをして集まった保護者の方々からってまず保護者の方もなかなか言いにくいし、やっぱ一番初めはやはりしっかりしたご意見を持ってあるもう方がもう言われると思うし、それから出てくると思うんですけど、やっぱもう様々なご意見が出て来るんじゃないかなあと思います。そしてやっぱり目の前の方の問題、やっぱりどうしてもこう子供の先生が少し何とかだとかこうやっぱり出て来ないとは限らないしですね。

○町長（岡崎邦博）

まあ出たとしても、さっきも言いましたようにそういう事は事としてそれはそれとして、今回はそういう事をお聴きする場ではありませんのでっていうふうに、まあこちらでもうお断りするしかないですよ。だからそれを伝えるとかそういう事はありません。まあはっきりそれは言いますので。だからまずどういう趣旨で今日この会合があつてるかという事をこちらの方から説明をしてですね、それにちょっとはずれたような意見がどんどん出てくればそれはもうこちらの方から制止すると。

○野中委員

何度も言ってるように趣旨がもう一つ伝わってこない、私は今こうお話しする中でやっぱり統廃合が根底だになっていうふうにこうずっと聴いてる中でこう感じたんですけども、それは表に出されないという事だったからそうなってきた時にやっぱり意

見っていうのはずうっと間口が広がってきて、あのどう言ったらいいんですかね、町長さんが思われるようなご意見も出るだろうけれどもとっても数が少なくなるじゃないか、他の方の意見が混じってしまうというか。

○町長（岡崎邦博）

いっぺんやってみたらいいと思いますがまあ思ったように上手くいかなくて、ほら見てんちゅう事になるかもしれないし、採り越し苦労だったなあと思って良かったねっていうふうになるかもしれないし、こればかりはもう相手のあることやきですね、やってみらななんやないかなと思うんですよ。特に今迄鞍手町はそういう事をやったこともないし、経験もないからですね、ここで先生達の意見を聴いてああそういう事もあるんやなあとそれこそ今私自身は思ってるんですけど、私自身はもっと楽観的に考えててそこまで深く考えても、考えても及び、考えても及んで無かったんですね、まあそういう事もあるのかなと今感じてるところですけど。

○堀角委員

腹を割ってくれんけんですね、町長が。

○町長（岡崎邦博）

いやいや…あのただただ以前から言ってる事とあまり変わりが無いと思いますし、ただその今度は方法論としてね、先ずは住民の方達の思いを聴きたいと言うのがまずまず最初の取り掛かる事かなと。何度も言いますように本当に難しい話です。で、後から住民の人達の不平不満が溜まってですね、最終的に町全体が混乱するよりも、今じゃあ例えば混乱したとしてもですね、それはそれとして学校側が混乱するような事になっちゃ困りますけど、小学校の適正な配置がどうなのかという事で色々な意見が出て収集が付かないっていう事を混乱というような事にするならばですね、そりゃそれとして色々な意見があったという事で良いのかなと私は思うんですよね。そういった意見をまず前提として聴いたうえで、今後じゃあそれをどういうふうにして解決し一つの方向にですね合意形成をしていくかという事の作業が必要になるかなと。

○堀角委員

でもですね、万が一混乱が起きた時に子供たちがそれ犠牲になるじゃないですか。

○町長（岡崎邦博）

混乱って要するに学校の混乱じゃなくて、それ要するにその会の中の混乱というふうな捉え方なんで、学校が混乱するような事にはしないと、もちろん。そういう事の意見を聴く場じゃないんで。まあそう言うような一度6校ですればですね、住民の方達に何がしかの同義付けには当然なってくると思います。同義付けの中でまた色々な意見が出て来るでしょう。だから次は地域の人も交えた中でね、もう一度同じような

機会を今度は小学校じゃなくて町の何か所かで開くことが必要かもしれません。だからまあそういう一つの切っ掛けにはなるやろうというふには思います。それは学校の現場に負担が掛かったり迷惑が掛からないようにはもちろん当然して行こうと思いませんし、まあそれこそさっき係長が言ったように町づくりの根本にも関わる事なんですよね、小学校っていうのは。

○木月委員

という事は、あれですかね教育委員会はやっぱりその話合いの場には、先程の話ではもうしないでいいと言う事で。最初はですね、ということは教育長さんも課長さんも教育委員会がもう全部今回はあのおう出なくて、町長さんと保護者の方がお話を意見を聞き合うっていう事で良いんですかね。

○町長（岡崎邦博）

そうです、はい。

○木月委員

行くなって言っても町長部局ですよ。

○教育課長（古後憲浩）

僕の感想としてはわざわざ保護者の方に集まっていたいて、町なり何なりに集まってご意見をいただくうちゅう事で進めるという事なんですけど、物凄くストレートに簡単にするとこの児童生徒の推計表、7年後100日間も少なくなりますと、学校運営も成り立たなくなりますよと、もうこれストレートに言って良いんじゃないかなと思うんですよ、僕の感想でけど。そういうあとその耐震もしました、空調も整備しました、だけど子供達はどんどん少なくなって7年後の話です。これが10年後20年後になるともっと少なくなる可能性があります。その中で町はどういうふうな方向で行くかご意見いただきたいんですって言った方が意見はそれに向けての意見がストレートに出るんじゃないかなと思うんです。で、町長、何でその今の現実と将来性について仰っていただけないのかがあれなんですけど、それを仰った方が本当は率直に小学生の保護者の意見が出やすいのかなというのが僕の感想としてあるんですけど、そこの目的、何の為に私達集められたんだらうとか、町長はその意見を聴いて何をさりたいのかっていうのを最初に打ち出された方が言い易いし、他の委員の先生達のご心配されてる学校の不平不満とかそういう今回の論点と違う事がほとんど出ないと思うんですけど。これは僕の感想なんで申し訳ないですけど。それ言ったら駄目ですかね。

○町長（岡崎邦博）

いやいやいや良い聞き方をしたなって思います。それで先ほども言ったようにどう

いう問い掛けにしようかなという所はまだはっきり決めてないって言うかどういふふうな形が良いのかなという所もまだ色々当然皆さん、皆さんっていうか意見を聴いて決めようかなっていうふうには思っていましたので、それは古後課長のお話がすごくストレート…だし、むしろ保護者の方達に来ていただく中の文章としてもね、そういう文章を一部入れた方がどういふ事の話かなっていうのが分かりやすいんで、より集まってくる可能性もあるかなっていうふうには思いますけど。

○教育長（栗田ゆかり）

学校の、ちょっとやっぱり問題はね、町全体としての人口の推移的な部分での児童生徒数のですね、状況っていうのが残念ながらこのまま行くところいう状況、これからは増える可能性ももちろん全く無い訳じゃないけどですね。

○町長（岡崎邦博）

まあそういう形で問いかけをして、文章についてもそういう文書にして、保護者の方に集まっていたかく、で、まああと、じゃあいつ頃どういふ形で実施するかについてはまだちょっと打ち合わせをさせてもらってですね。

○教育長（栗田ゆかり）

そしたらそれについてやっぱり私は校長先生方には不安を持たないようにですね、そこについてはやっぱり校長会の中で繰返しお話をしなくちゃいけませんし、PTAの会長さん達もし事前にですね、こういうので人集めをしていただきたいと言うような事があれば学校を通してですねPTAの会長さん達に集まっていたくいて何処かで説明していただくような、こんな事で話をしたいというのを。

○町長（岡崎邦博）

という事は逆にPTA、主催は町で良いんですけどPTAの方達を通して招集とか集めて的確に文書配布をしてもらおうと。

○教育長（栗田ゆかり）

もちろん学校に配布、例えば広報とかにも載せていただかないといけないと、広報に載せていただくのかどうか分かりませんが。

○町長（岡崎邦博）

広報には載せないですね。学校それぞれ個別で出してもらうような形になります。

○教育長（栗田ゆかり）

それじゃあ、こういうひな型で出して下さいっていうのを作って貰って、そしてそれでそれを通して日時とかだけを各学校で変更するか何かしてですね、出すけど

会長さんを通して学校は関わらないというかですね。PTAの役員さん同士で声掛けしてもらおうとかですね、集まっていただいて。

○町長（岡崎邦博）

そうですね。一度PTAの会長さんに集まっていただいて私の方から趣旨も含めてお話をさせて貰う機会を作ってもらえれば。

○教育長（栗田ゆかり）

それはもう、すぐPの会長が、町の会長分かっておりますのでそこにまた趣旨は説明したいというふうに思います。それも段取りとしては出来ますけど、出来ますので。

○堀角委員

それとこの資料の分のですね、ここに基本方針を考えてる市町村とかがあるんですよ、それも含めて鞍手町の基本方針というか、基本方針とかいうのもですね、作っていく事、考えて検討していった方がいいのではないかなど。

○町長（岡崎邦博）

そのまだ前の段階ですから。そういう事になると基本方針とか基本計画とかずっと作っていったらもうそれで行くんやねえと思うでしょ？それでさっき言ったように色々な抵抗反発が出てくる可能性があるんでそういうのをまず前に。今要するにある程度の方向性を聴いてもらうという事は必要やろうし、それよりもまず何をねみんな考えているかというのを。それからの作業になる、だから時間が掛かる。

○教育長（栗田ゆかり）

いやあんまり自分の子供さんの事が中心で、あんまり自分の学校云々という事はもしかしたらお尋ねになった中で考えていくような形が出てくるかなど。

○町長（岡崎邦博）

まあ今古後課長が言われたような問い掛けにすればですね、ある程度意識を持っている方達は私はあると思うんですよね。まあそれこそやってみないと分かりませんが、何処の学校からするか順番にもよってくるかもしれないし。どっちから行くか、南から行くか北から下がっていくか分かりませんが。

○教育長（栗田ゆかり）

まあでもそれぞれの会長さん達とのですね、お話し合いの中で時間とか。それは本年度中にされるという。

○町長（岡崎邦博）

そうですね。もう本年度中というかも早くしたいですねえ、まああんまりそれで寒くならない時期にしたいんですよえ。

○教育長（栗田ゆかり）

それはちょっと難しい。6校だったら2月3月に、なると思います。

○藤井委員

町長今さ、総合計画その後期の分、まだ今年度5年間言いようやないですか。あの中には統廃合というのは文句入れとんですか、入れてないんですか。

○町長（岡崎邦博）

あれは統廃合という言葉じゃなくて、えっとなんち言う言葉で入ったかね。

○教育課学校教育係長（岩崎一宜）

多分在り方ですよ。

○町長（岡崎邦博）

在り方やったよね。

○藤井委員

やっぱ在り方ですか。

○町長（岡崎邦博）

そういう文言は入ってるんですよ。で検討するっていうふうになってたよね。

○教育課学校教育係長（岩崎一宜）

はい。たぶん前期とほぼ変えてないと思います。

○町長（岡崎邦博）

前期でも全く手付かず、この4年間で手付かずになってます。まあそういう事も。

○藤井委員

それ書いとして今度は聴きたいとなった時には、町長、総合計画の中に統廃合というの書いとるやねえかという話になってきますからね。

○堀角委員

後は情報を共有せんないかんですよえ。

○町長（岡崎邦博）

そうです、そうです、もちろん、はい。常にそれこそ住民とのコンタクトももちろんですけど、教育委員会とこちらとをですね情報を共有してですね、進めて行くというのが一番ですね、はい。

○藤井委員

それで集めるにはやっぱりある程度の町長が聴きたい柱がピシッと出ときゃですね、それに対する保護者のあれも違ってくるでしょうけどね。

○総務課庶務管財係長（神谷）

また聴き方についてはまあまた出てですね、出来上がりましたらご意見伺いたいと思います。

それではちょうどお時間になりましたので、これを持ちまして第2回総合教育会議のほうを終了致します。お疲れさまでした。

（午後5時15分 終了）